



アオハダ（青膚）〈モチノキ科・モチノキ属〉

北海道から九州に分布する落葉高木。山地や里山に自生する。はっきりとした短枝を作り、葉は束生する。短枝は毎年少しずつ伸び葉痕（葉が枝に着いていた所に残るあと）が多数並ぶ。葉は葉脈が窪むのが特徴で、長さは4～8 釐、巾2～5 釐の卵型または楕円形。花は7～8月短枝に緑白色の小花を咲かせ、実は赤く熟しくマが好んで食べるという。和名は樹皮が薄く、爪で剥ぐと緑色の内皮が見えることから。葉は茶として利用され、若芽も食用になる。新緑や樹形が美しく庭木としても人気がある。・・・▼7月の例会は湯来町の狐原山。この狐原山で出会い、以前から気に留めていたアオハダが、豊かに葉を茂らせ風にそよいでいた。▼気に留めるとは、忘れずに覚えておく事。忘れてはいけない今年の8・6は、原爆投下から75年の節目。コロナ禍で様々な影響があるものの、負の遺産を抱えた広島人の一人として、平和を発信し平和を祈るこの日を、大切に心に留めておきたい。 ～佐伯区湯来町 2020・7月～